

2024年8月6日

各 位

会 社 名 K T C (京都機械工具株式会社)
代表者名 代表取締役社長 田中 滋
(コード5966 東証スタンダード)
問合せ先 戦略企画部長 重田 和麻
(TEL 0774-46-3700)

「KTC vision 2030」第1次中期経営計画の進捗状況について

KTCグループ長期ビジョン「KTC vision 2030」の「第一次中期経営計画(2022年4月～2025年3月)」
について、2023年度の進捗状況と戦略の概況についてお知らせいたします。
詳細については添付資料をご参照ください。

以 上

KTC vision 2030

第1次中期経営計画（2022～2024年度）の進捗状況について

2024/08/06

目次

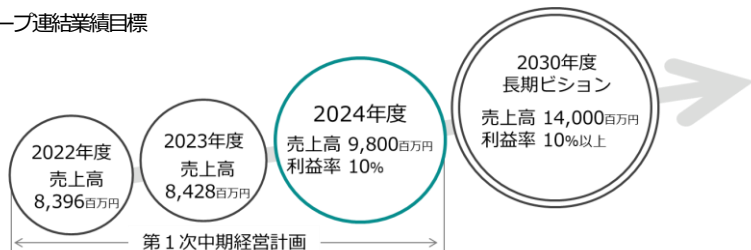
1. 第1次中期経営計画 進捗状況について
2. 第1次中期経営計画 戦略の概況
3. サステナビリティ（ESG取組）の概況

第1次中期経営計画 進捗状況について

KTC vision 2030 基本方針

社会の期待を超えたツールで、人の能力を拡張し、世の中の安全を創り出す

グループ連結業績目標



第1次中期経営計画 基本方針

つながる&見える化で、新たな モビリティ ファクトリー インフラを攻略する



KTC vision 2030 の達成に向けた成長基盤構築のステップと位置付け、戦略を推進する

グループ連結業績進捗状況

	2022年度	2023年度		2024年度
単位：百万円	実績	計画	実績	通期計画
売上高	8,396	9,300	8,428	9,800
営業利益	793	880	910	980
営業利益率	9.5%	9.5%	10.8%	10.0%
			達成率	前年比
			90.6%	100.4%
			-	+1.3p

2023年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の法的位置付けが5類へ移行し、経済活動の正常化が進んだことで緩やかな回復基調が続きました。しかしながら、世界的な金融引き締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れがわが国の景気を下押しするリスクとなっております。また、自動車や産業機械など関連産業においては、設備投資に持ち直しの動きが見られるものの、物価上昇、ウクライナ情勢や中東地域の不安定化、金融資本市場の変動などの影響もあり、依然として不透明な状況が続いております。

このような経営環境のもと当社グループにおきましては、工具事業を核とした成長戦略を展開し、収益・利益の拡大に努めてまいりました。とくに、収益性の改善に向け製品仕様の見直しや加工工法の改善、デジタル推進による業務の効率化など、全社一丸となってコストダウンに取り組んでまいりました。そのほか、2023年1月17日付で子会社化した株式会社H I - T O O Lを連結した効果もあり、2023年度の売上高は84億28百万円（前年同期比0.4%増）、営業利益は9億10百万円（前年同期比14.7%増）となりました。

第1次中期経営計画 戦略の概況

「KTC vision 2030」を開始し飛躍する確度を高めることができた案件と従来からの当社グループの柱となる取り組みを含め、2024年度は以下の戦略に集中し、KTCグループ連結売上目標9,800百万円の達成を目指す。

〔戦略骨子〕 今までの概念を覆す - リーディングカンパニーの伝統を活かす - 新たなチャンスに挑戦

戦略項目	概況
TRASAS	<p>「TRASAS (TRAcachable Sensing and Analysis System)」シリーズは、IoT技術を搭載した工具や測定具、作業支援デバイス、これらのシステムソフトウェアで構成されており、作業データを無線でデバイスへ転送することで作業履歴の自動的な記録・管理・分析を可能にいたします。「TRASAS」シリーズ代表製品の一つである「メモルク」のラインナップとして開発したガスや水道管などの締め付け作業に最適な「モンキヘッド」タイプや豊富なバリエーションの交換ヘッドと組み合わせ可能な「交換式ヘッド」タイプなどの拡販に向け、ターゲット企業へのアプローチを充実させてまいります。</p>
RFID	<p>航空宇宙産業やMRO (Maintenance Repair Overhaul) 産業をはじめ様々な業界で安全に対する社会的要求が高まり、作業の管理体制強化や効率化が求められるなか、世界初となる360°あらゆる角度から電波の読み取りが可能なRFID搭載工具「nepros ID」シリーズをRFIDタグメーカーと共同開発いたしました。同IoT対応工具を厳格な工具管理が求められる作業現場で活用することで、使用履歴管理による紛失抑制や紛失した際の工具の探索を容易にすることなどにより整備における安全性向上に貢献いたします。成長戦略の柱となるIoT技術を用いたツールを中心に、作業管理のニーズが高い多様な業種へ向け、開発を展開してまいります。</p>
nepros 北米展開	<p>当社グループのフラグシップモデルである「nepros」ブランドを中心にグローバル市場への挑戦を進めております。主に米国自動車アフターマーケットをターゲットに、全米で約12,000台存在する現地のツールトラックの一部を活用し「nepros」ブランドのグローバル展開に取り組んでおります。米国自動車アフターマーケットに合わせたサイズ展開やセットなど、製品ラインナップの拡充にも取り組んでまいります。</p>

上記戦略を支えるサプライチェーンマネジメント強化

サステナビリティ（ESG取組）の概況

－ 地球に、社会に、私たちができること －

KTC

主なESG取組目標

長期ビジョン
2030年度 数値目標

・ 温室効果ガス排出量 2013年度比50%削減

- ・ 温室効果ガス排出量 2013年度比15%削減
- ・ 廃棄物の排出量 2021年度比14%削減
- ・ 重大不良外部流出、重大品質クレームゼロ
- ・ 災害、ハラスメントゼロ
- ・ 法令違反、社内不祥事案ゼロ

第1次中期経営計画
2024年度 数値目標

E 地球環境に徹底的に貢献する

第1次中期経営計画
2024年度 目標

2023年度 実績

温室効果ガス排出量（2013年度比）

15% 削減

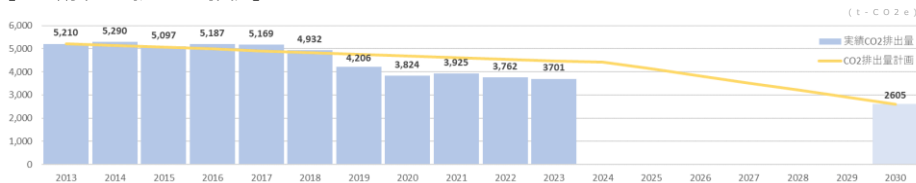
28.9% 削減

廃棄物の排出量（2021年度比）

14% 削減

9.1% 削減

〔温室効果ガス排出量 推移〕



2023年度は、温室効果ガス排出量 2013年度比「28.9%削減」、廃棄物排出量 2021年度比「9.1%削減」となり、温室効果ガスに関しては、従前からの排出量削減の取組効果から、当初の目標を大きく上回る結果となりました。しかし、長期ビジョン「KTC Vision 2030」においては、「売上高140億」を目指す成長戦略を推進しており、生産設備の増強や生産量の増加が見込まれることから、温室効果ガス、廃棄物ともに更なる排出量削減が必要であり、2023年度以降も地球環境に徹底的に貢献するために積極的に取り組んでまいります。

◀2023年度の取組（抜粋）▶

省エネタイプの空調や生産設備の導入・更新、効率の良い生産方法への切替、製品パッケージのプラスチック使用率削減、環境負荷物質の管理強化

S あらゆるステークホルダーと共生する

第1次中期経営計画
(2024年度) 目標

2023年度 実績

重大不良外部流出
重大品質クレーム

※大きな怪我や財産に損害を及ぼす製品品質を満たしていない状態

ゼロ

ゼロ

災害、ハラスメント

ゼロ

休業災害「1件」

2023年度は、重大不良外部流出、重大品質クレーム、ハラスメント「ゼロ」、休業災害（生産設備取り替え時の小指負傷による災害）「1件」となりました。安全、安心な社会の実現を目指し、その基礎となる作業現場で働くお客様の安全を担う企業として、安心して作業できる製品を提供し続けることが最大の使命であり、最優先の取り組みと考えております。また、事業を維持・向上、変革させる源泉は人材であり、当社グループは、価値創出を担う人材育成を目指した各種制度を充実させると共に、社会的潮流を汲み取った「働き方の新しいスタイル」を追求し、一人ひとりが快適で持続的に働きやすい職場環境を整備することで、KTCグループの成長を実現してまいります。

◀2023年度の取組（抜粋）▶

製品改善委員会による品質改善活動、従業員向け品質研修、健康経営2024総巡正(5年連続)、統合サーベイ実施と分析及び対策、制度・規定の見直し、学校・企業向け工場見学、外部団体とのイベント共催

G 持続可能な信頼される企業であり続ける

第1次中期経営計画
(2024年度) 目標

2023年度 実績

法令違反、社内不祥事案

ゼロ

ゼロ

2023年度は、法令違反、社内不祥事案「ゼロ」となりました。コーポレートガバナンスコードへの対応を充実させるとともに、従業員にむけたコンプライアンスや情報セキュリティの教育を実施することで継続的な体制の強化を実施しております。

◀2023年度の取組（抜粋）▶

CGCエクスペイン項目への対応、管理職向けハラスメント教育実施、ガバナンス体制については会社ホームページにて公表しております。下記URLをご参照ください。

<https://ktc.co.jp/ir/management/governance/>

ESG目標や取組実績の詳細については会社ホームページに公開しております。下記URLをご参照ください。

<https://ktc.co.jp/future/>

その他特記事項

本資料に記載されている当社の方針、業績や技術、製品、サービス等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

KTС